

地域要望などで意見交換

◆市内4地区で開催◆ 平成24年度 移動行政懇話会

市では、北秋田市のまちづくりや行政課題などについて市民と語り合う移動行政懇話会を8月21日から24日にかけて4地区で開催し、福祉の雪事業や空き家等実態調査などについて説明するとともに、市民からさまざまな意見や要望を伺いました。その概要をお知らせします。



▲4地区で開催された移動行政懇話会（鷹巣地区会場）

懇話会は、市の現状や周知事項を説明するとともに、行政への意見・要望を伺う機会として平成19年度から開催しているもので、今年度は阿仁地区を皮切りに4地区で市民約170人が参加しました。

8月21日の阿仁会場では、開会にあたり津谷市長が「震災がれきの受け入れについて、可燃物の受け入れを前提に検討してきたが、国の方針を踏まえた県からの通知では、当市に対する協力要請は無いものと判断している。今後も、災害廃棄物処理以外の要請に対して、可能な限り支援していきたい。今年は、秋田内陸線の存続に向けた4者合意の最終年度。市としても、秋田内陸線は地域住民の足として、また森吉山周辺に観光客を呼び込むツールとしても必

要と考えている。また、爆発的な人気がなっているバター餅について、6月29日に、北あきたバター餅として特許庁に商標登録を申請、7月23日には、日本バター餅協会が設立された。バター餅を一過性のものではなく、市の特産品として育てていくとともに、今後も特徴あるものを育て、発見していかなくてはならない。今日は限られた時間ですが、住みよい北秋田市づくりのため皆様から忌憚のないご意見をいただきたい」などとあいさつ。

続いて、市の担当職員が、平成24年度福祉の雪事業と空き家等実態調査について説明しました。

参加者から出された主な質問や意見、その回答は次のとおりです。

◆阿仁地区（8月21日／阿仁ふるさと文化センター／約30人参加）

▼河川公園に菖蒲園の花菖蒲を移せないか。

菖蒲園は、3年かけて今後どうするか検討することにしていて、今年が3年目になる。結論というわけではないが、荒瀬自治会と廃止を視野に入れた協議を進めている。もし、廃止が決定すれば、花菖蒲は各所に移設したいと考えている。河川公園もその候補のひとつ。

▼空き家調査をした場合の指導はど

を受け入れる余裕が今のところ無いということをご理解いただきたい。

◆合川地区（8月22日／合川農村環境改善センター／約40人参加）

▼スクールバス通学は、4km以上が対象と決まっていると思うが、体の小さい小学校1、2年生については、3km位でもスクールバスの対象に入れるなど柔軟に考えてほしい。

小学校4km以上、中学校7km以上と規定はあるが、道路の状況、子どもたちの発達年齢などを加味しながら、弾力的に考えていきたい。

▼合川小学校の新校舎が建設される場所は、平成19年の豪雨災害で浸水した地域であるが、安全を考えての計画であるのか。

県に確認したところ、森吉山ダムが完成し、阿仁川の護岸工事も完成しているので、19年豪雨災害程度であったのも大丈夫だと聞いている。100%安全だとは言えないが、新校舎建設の際は、そのことに充分考慮しながら土台を嵩上げするなど万が一のために備えたい。

▼市民病院は、医師のほか看護師も足りないという。以前、阿仁病院から米内沢病院に看護師が派遣され、また米内沢病院からも北秋中央病院に看護師が派遣されていた時期があった。北秋田市民病院には、

市として看護師の派遣は考えていないのか。

適切な診療をサポートする看護師の体制は、きちんと充実するよう考えていきたい。

▼消火栓ホースの格納箱の更新は、市の予算でやってほしい。

合併当時の格納箱の設置箇所は、合川地区272カ所、森吉地区139カ所、阿仁地区16カ所、鷹巣地区3カ所であった。合併後、格納箱の管理は自治会にお願いしているの

◆鷹巣地区（8月23日／中央公民館／約60人参加）

▼八幡平の熊の受け入れについて、市長は以前から受け入れを考えているとの話であった。県との折り合いがつかず、北秋田市の知名度アップからも、全頭受け入れても良いのではと思うが。

このまま熊を非常に劣悪な環境で飼いつつ、残酷な県であるとイメージが悪くなり、県内の観光などにマイナスになるのではと心配している。北秋田市はマタギの文化があり、自然と人間の共存に重きを置いてきた地域であり、秋田県内で引き受けるとすれば、阿仁の熊牧場しか

ないと思っている。市単独では施設の問題もあるので、色々な機関から応援があれば市としても検討していきたい。

▼舟場では、県道の側溝と市道の側溝が合流したその先の側溝工事を要望しているが、一切行われていない。それぞれの道路の水を集め、その先で流れるよう工事を要望する。すぐに現場を確認し、検討させていただきたい。

▼伊勢町では、水路より川の方が高い位置にあるため、大雨の時に水門を閉めるが、その際、そこに集まる雨水を川に放流するポンプを設置すると前から聞いている。設置はいつになるのか。

国には大雨の際に伊勢町の水門から放流できなければ、広い範囲に影響するのはと話しはしている。国でポンプを設置する予定になっているが、時期については不明である。

◆森吉地区（8月24日／森吉コミュニティセンター／約40人参加）

▼小又・長坂の市道は、カーブがきつく、救急車や消防車が入るにも狭く、危険である。早急に対応してもらいたい。

改良工事を早め実施したいと考えているが、用地交渉に難しい箇所

うするのか。人が住んでいながら壊れて傷んでいる家もあり、隣近所に迷惑がかかることも心配される。空き家調査の際は、把握しておいてほしい。

今回の調査で実態把握をしたうえで、空家の適正管理に関する条例等を検討しながら、周囲に迷惑がかかる建物の整理をしていければと思う。迷惑がかかっている事例は、連絡をいただければ、所有者をさがし、その都度、電話や文章で適正な管理をお願いするよう対応していく。

▼高齢化が進み、民生委員の役割が非常に大事になっている。どのようにして選んでいるのか。

市には民生委員が150人いる。例えば75歳以上の更新はしないようにしているが、各集落によつては、なり手がいない状況で例外もある。前任者、自治会長、婦人会と相談したりしながら、多くは、前任者から推薦をいただく場合が多い。

▼お盆で帰省する人が、市民病院での人工透析を申し込んだが、昨年も断られ、今年も6月に申し込んだが断られた。何か月前に予約すれば受け入れてもらえるのか。

市で50人以上の方が人工透析を受けている。市内で人工透析を受けられるところは市民病院しかなく、市民の方でさえも市外で受けている方もいる状況であり、新たな患者さん

があるため、用地交渉に努めながら、改良を進めたい。

▼阿仁前田の駅前、家がつぶれ10年にもなるがそのままの状態になっている所がある。できたら早急に処分を。

合併前から働きかけてきたが、返事が返ってこない。一方的に手をかけるわけにもいかない状況。空き家調査の背景には、そのような場合に何らかの手段を講じたいという思いがある。今少し時間をいただきたい。

▼森吉山麓高原、ノロ川の道路が決壊しているところがあり、大型車が通れない。紅葉シーズンに向けて、どう工事を進めていくのか。

雪害の影響で、至る所で道路が決壊した。山腹側の土砂災害もあり、市としても危険を避けるため、やむを得ず規制をしている。市の単独予算で、支障をきたしている斜面の撤去はやっているが、肝心の路肩の決壊の大きいところ2カ所は、9月25日から災害査定に入る。査定終了後、一日も早く工事に着手したい。

▼旧米内沢病院の建物もまだ建っているが、排水路やマンホールも危険なので、廃止するならば、なるべく早めに廃止した方がいいのではないかと、病院の建物自体は、解体する方針排水路は確認していなかった。調査しながら対応したい。